

菅ノ口A遺跡

所在地 豊田市下山田代町菅ノ口地内

(北緯 35 度 1 分 40 秒

東経 137 度 18 分 54 秒)

調査理由 豊田・岡崎地区研究開発施設用地
造成事業

調査期間 平成 27 年 5 月～平成 27 年 9 月

調査面積 1,400 m²

担当者 成瀬友弘・橋本 昇

調査経過 豊田・岡崎地区研究開発施設用地造成事業に伴う事前調査として、愛知県企業庁より委託を受けて実施した。



調査地点 (1/2.5 万「東大沼」)

立地と環境 本遺跡は、南北に走る狭い谷の最奥部の南向き斜面に立地しており、斜面の緩くなった部分を中心に展開している。調査前の状況は旧耕作地と植林された山林であった。標高は海拔 440m～444m である。今回の調査地点は平成 25 年度に調査した菅ノ口遺跡の北側に隣接した区域にあたる。

調査の概要 今回の調査では、主に縄文時代、古代、近世の遺構・遺物を確認した。

縄文時代の遺構としては、陥穴 050SK や炉跡 169SL などが該当する。遺物としては、縄文土器の他、石鏃やたたき石・スクレイパーなどが出土している。

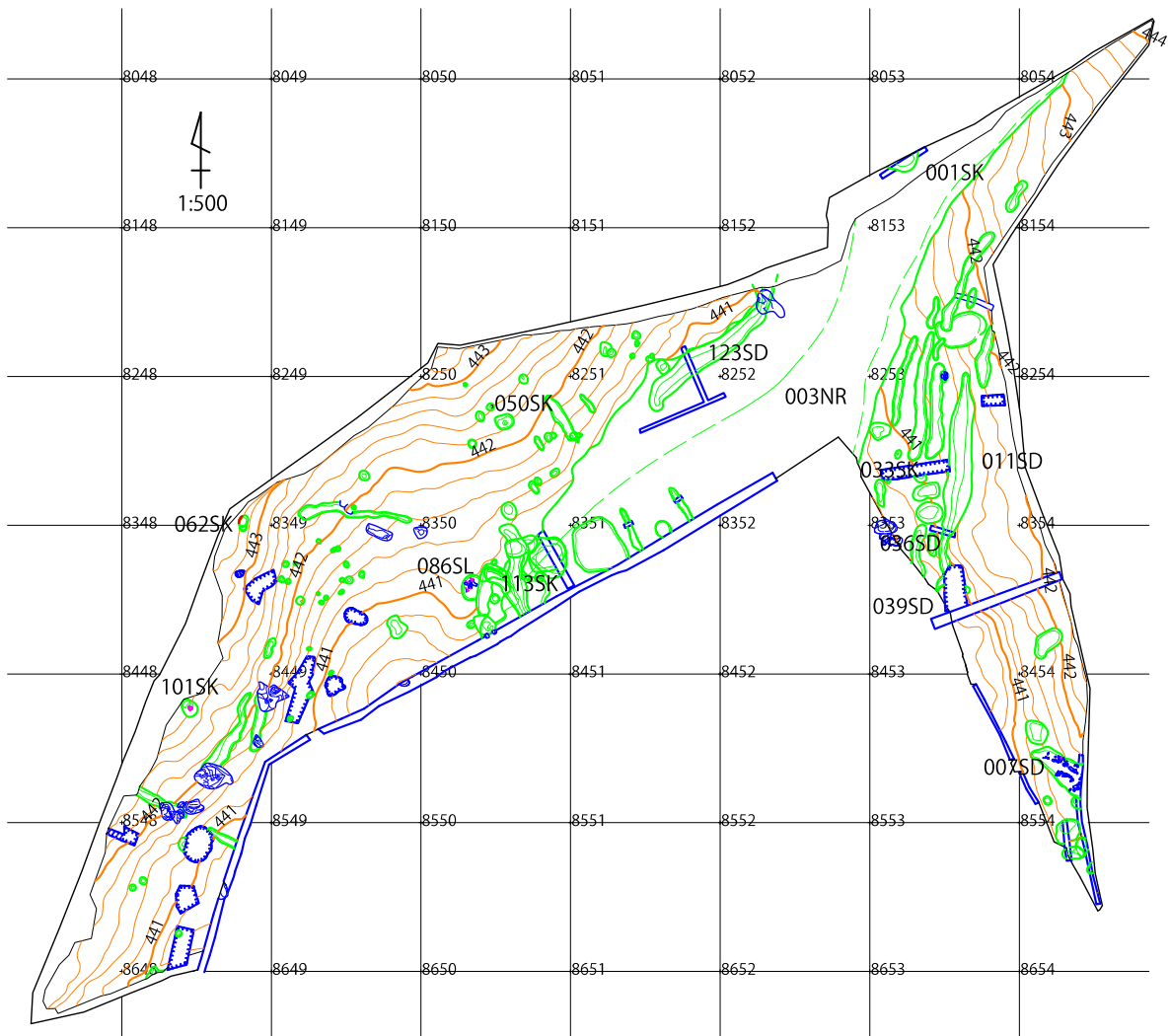
古代の遺構としては、主に調査区中央を北から南に流れる自然流路 003NR の西岸を中心に炉跡や溝、土坑などが展開している。003NR は、検出面からの深さが約 1.5m あり、出土遺物は、古代の灰釉陶器・土師器が中心で、検出面上層で中世の山茶碗などが出土した。最下層から出土する遺物と検出面近くの遺物との時期差はほとんどなく、深い谷が短期間に埋没したものと考えられる。炉跡 086SL からは、土師器が出土したほか、被熱した大型の砥石・鉄滓などが出土しており、すぐ脇の土坑からは大型砥石の他、被熱した部分に敲打痕のある金床石と考えられる大型の礫も出土し、この付近が鍛冶作業の場であったと考えられる。003NR が埋没した後に掘削された溝 123SD は、003NR に沿うように掘削され、山側からの湧水を流すためのものと考えられる。埋土からは灰釉陶器、土師器が多数出土したほか、刀子も出土している。

近世の遺構は、調査区東西に集中しており、西側では風化花崗岩の層を削り込んだ遺構が展開していた。101SK は、長径 1.5m、短径 1 m の土坑で風化花崗岩を掘り込んで常滑窯産の赤物の甕を据えていた。埋土からは紅皿や水滴などが出土した。東側では、東西方向に走る溝 007SD を検出した。この溝は一度埋没後に再掘削され、肩の崩れを防ぐためにか溝の両側に石を並べていたことが確認された。埋土からは土師質の焙烙や砥石などが出土した。

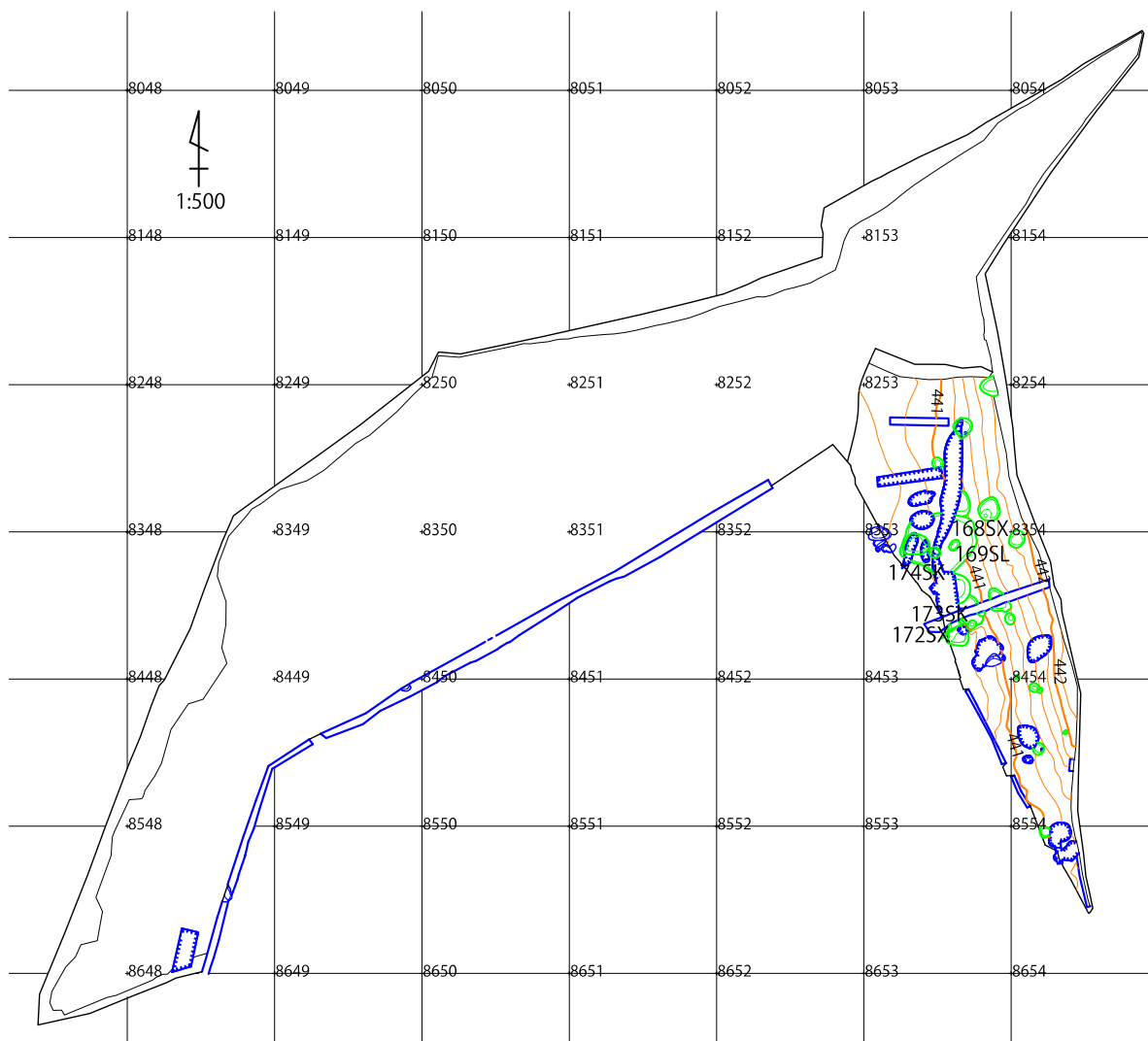
まとめ 今回の調査では、平成 25 年度調査で出土した中世の遺物の出土量は少なく、古代の遺物が多くみられた。遺構で古代に属するものが中心で、流路脇からは鍛冶関連の遺構が確認され、当地区での古代の人々の生業の一端を確認することが出来た。(成瀬友弘)



調査区位置図 (1 : 1,000)



1面遺構平面図 (1:500)



2面遺構平面図 (1 : 500)



調査区全景 (南より)



050SK 完掘状況 (南より)



2面包含層出土石鏃 (西より)



085SL 遺物出土状況 (西より)



123SD 完掘状況 (西より)



003NR 全景 (南より)



003NR 遺物出土状況 (東より)



007SD 石列検出状況 (西より)



007SD 遺物出土状況 (南西より)